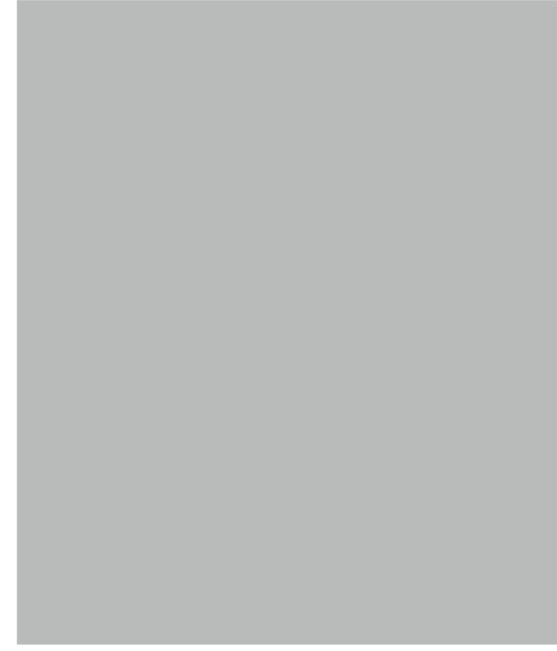


2



1

2011年度の展覧会

さまざまな美術のジャンルを三重県立美術館の特色に合わせて偏りなく皆様にご紹介すること。このような展示内容のバランスを1年の単位で達成することは通常困難ですが、2011年度の展覧会は美術の豊かなひろがりをも「ほどよく」ご紹介できる内容となっています。

この春の展覧会は、1940年代から現在にいたるまで新たな日本画の世界を常に切り開いている堀文子の個展を開催します(4月9日―5月29日)。世界各地に滞在して独自の感性を養い、かたや顕微鏡でみる微生物に魅せられるなど彼女の関心の広さや深さはそのまま色鮮やかな作品へと結実しています。今回は雑誌『サライ』の原画や未発表作品などを含めた多面的な展示を試みます。その後、6月11日―26日までの短期間ですが、一昨年の展覧会で好評を博したイラストレーター大橋歩の、前回ご紹介できなかった作品を含めた小企画展示をします。

そして夏休みをまたぐ7月9日―9月4日には、日本を代表するグラフィック・デザイナー福田繁雄(1932―2009)の回顧展を立体造形をまじえて紹介します。遊びの精神があふれる視覚のトリックで、幅広い層に愛される福田ワールドをお楽しみください。

秋の展覧会シーズンには、明治初期から昭和前期の洋画史に大きな役割を果たした二人の画家藤島武二(1867―1943)と岡田三郎助(1869―1939)の画業を紹介します(9月10日―10月23日)。藤島は若い頃、津の中学校で教鞭をとったことのある

2011年度の展覧会

手元も見えないくらいの暗がり中でも、目を開けてそのまましばらく待っていれば、しだいにもののかたちが見えてくるようになります。人間の感覚とは不思議なもの。はじめは少しどきどきしても、見ることを恐れなければ、知るよろこびを手に入れることができます。美術の世界も同じです。2011年も三重県立美術館ではさまざまな作品をご紹介します。さあ、あなたはどんなよろこびを手に入れますか？(Hm)

三重県立美術館ニュース

展覧会スケジュール

■企画展示

コレクション展 物語る美術

2011年2月26日〔土〕―3月27日〔日〕
 観覧料：一 般 500(400)円
 高大生 400(300)円
 小中生 無料
 ()内は20名以上の団体料金

●こどもひろば キカクテンを楽しみ隊
 日時：3月5日〔土〕、3月12日〔土〕
 両日とも午後1時30分から
 対象：小学生以下(未就学児は保護者同伴)
 定員20名程度(先着順)、要申込、参加費無料

堀文子展

2011年4月9日〔土〕―5月29日〔日〕
 観覧料：一 般 900(700)円
 高大生 700(500)円
 小中生 400(300)円
 ()内は20名以上の団体料金および前売料金

■常設展示

美術館のコレクション

【2010年度 第IV期】
 2011年1月4日〔火〕―3月27日〔日〕
 【2011年度 第1期】
 2011年3月29日〔火〕―6月26日〔日〕

柳原義達記念館 柳原義達の芸術

【2010年度 第IV期】
 2011年1月4日〔火〕―3月27日〔日〕
 【2011年度 第1期】
 2011年3月29日〔火〕―6月26日〔日〕

■メールマガジン 購読料無料

三重県立美術館の最新情報をみなさんのパソコン、携帯電話へお届けします。詳しくは、美術館ホームページをご覧ください。

三重県立美術館

〒514-0007 津市大谷町11
 Tel:059-227-2100 Fax:059-223-0570 <http://www.bunka.pref.mie.lg.jp/art-museum/>

三重県立美術館ニュース「HILL WIND」No.27

■発行日:2011年3月10日〔禁・無断転載〕 ■企画・編集・発行:三重県立美術館 ■原稿末尾のイニシャルについては以下のとおり
 井上隆邦(Ib) 毛利伊知郎(Mi) 伊藤亮子(Ir) 石崎勝基(Ik) 田中善明(Ty) 道田美貴(Mm) 生田ゆき(Iy) 原舞子(Hm) 柴野みゆき(Km)
 ■デザイン:豊永政史 ■表紙の作品:堀文子《鶴が渡る、ヒマラヤを越えて。》2010年 個人蔵

利用のご案内

■開館時間

午前9時30分午後5時(入館は午後4時30分まで)

■休館日

月曜日(ただし、祝日休日は開館)、3月22日(火)

■観覧料

【常設展示の場合】
 〈美術館のコレクション+柳原義達記念館〉
 一 般 300(240)円
 高大生 200(160)円
 65歳以上の方、小・中生 無料 ()内は20人以上の団体料金

【企画展示の場合】

その都度定めます。
 ただし、学校の教育活動として小・中・高・特別支援学校等の団体が観覧する場合、身体障害者手帳等をお持ちの方および付き添いの方1名が観覧する場合は無料。

■交通

津駅(近鉄・JR線)西口より徒歩約10分または、循環津駅西口(つつしが丘、むつみが丘経由)行き、総合文化センター行き2分、美術館前下車 ※できる限り公共交通機関をご利用ください。



至名古屋・大阪 至国道306号線 至鈴鹿・四日市
 至関 津 関線 人権センター 伊勢鉄道 近鉄名古屋本線 三重大学・国道23号線
 至津 I.C. 津 津 I.C. 伊勢自動車道 津 芸濃 大田山線 津市役所 三重県庁 至松阪
 至伊勢 伊勢自動車道 津 I.C. 伊勢自動車道 津市役所 三重県庁 至松阪



4



3



5

- 堀文子《極微の宇宙に生きるものたちII》2002年 個人蔵
- 福田繁雄《福田繁雄展》1975年 DNP文化振興財団蔵
- 藤島武二《婦人と朝顔》1904年 個人蔵
- 岡田三郎助《黒き帯》1915年 鳥根県立石見美術館蔵
- イケムラレイコ《birdgirl》2006年 三重県立美術館蔵

ゆかりの画家。かたや岡田は和服姿の女性を描いた三越のポスター等でも有名ですが、二人には共通点が多くまさにライバルともいえる存在です。今回は二人の描く女性像を中心に振り返ります。
 秋が深まる11月8日からは津市出身でドイツを拠点に活動を続けるイケムラレイコ(池村玲子1951)の展覧会を開催します(1月22日まで)。日本ではほとんど紹介されていない初期の作品から、少女や海をモチーフにした絵画や彫刻作品などその全貌を紹介します。今年度もご期待ください。(Ty)

去る12月上旬、こどもアートinみえ「心を描く」(2011年1月4日火)―2月13日(日)の参加アーティストである、画家の名知聡子さんと詩人の村田仁さんにインタビューを行いました。8月の中学・高校生対象のワークショップを終え、展示作業間近のお二人に、展示会への思いや美術に関することなどをうかがいました。

Q 今回のこどもアートinみえ「心を描く」では、お二人にそれぞれワークショップをお願いしましたが、ワークショップをされるのは初めてですか？

名知(以下、N) 初めてです。
村田(以下、M) 前に何人かで参加したことはありますが、このようなかたちは初めてでした。

Q お二人ともほぼ初めてということですね。参加する前と後で、ワークショップに対する考えは変わりましたか？また、出来上がった作品をどのように展示したいですか？

N ワークショップとは何だろう？とまず考えたのですが、みんなでひとつのことを一緒にやる、つくっていくことだと思いました。普段はひとり制作をしているし、作品の傾向も自分を中心に、個人的、内面的なものを作り出しているの、今回のように自分もひとつの分子となって、みんなで行うという経験自体初めてでした。かなり「自分」を抑えて制作した部分があり、出来上がった作品はいつもとは異なり、一緒に作り上げた感じがします。みんなで一緒に作ったことが感じられる、あたたかな日だまりのような展示にしたいです。

M 最初に美術館から「心の風景」という大きなテーマが提示されて、それに対してある程度自分で括りをつけました。それはタイトルの「声変わりの日」にあらわれています。今回はあえて大人っぽさを子どもたちから引き出すように、どこか意図的にしたと思います。ワークショップを行った段階から時間を経っているので、もしかしたら子どもたちの中には書き直したい、今と違う、という気持ちの子もいるかもしれません。だから、展示を見たときにいい意味で裏切る、自分の書いたものに対してはっとする瞬間が生まれるようにしたいです。

Q 「絵」と「詩」という組合せについてはどうお考えですか？

N 同じ日にワークショップを行ったことで互いにいい影響を与え、創作を刺激していたと思います。
M 絵については普段描き慣れている子がいたし、詩に関してはある程度心の準備をしてきた子もいたけれど、絵と詩のワークショップを同時に行ったことで思いもかけないものが生まれたような感触がありました。
Q 「こどもアートinみえ」では、アーティストとの協同作業を通して子どもたちが美術に触れ、美術について考えるきっかけをもちたいと思います。お二人がそれぞれ美術を目指したきっかけは何でしたか？
N 子ども頃からとにかく絵が好きでした。絵を描く時間を増やしたいので、美術専攻の高校へ通い、大学に進学し、卒業して絵を描いて生活するようになりました。自然と流れてきた感じです。
M 僕も子どもの頃から絵やマンガを描くことは好きでした。中学・高校で美術部に入り、そこで先生と出会ったことが大きかったと思います。先生の作家としての姿を見てきたから、その影響を受けていたのかもかもしれません。
Q 美術館についておうかがいます。子どもの頃は美術館へ行きましたが？
N お弁当を持って友達とよく行きました。一緒にお弁当を食べて遊んで、美術館を見てまわる、ということをよくしていたので、今でも美術館は楽しいところという印象があります。今回、美術館で展示をするので、憧れていた場所で仕事ができるという嬉しさもあります。
M 幼稚園で制作した絵が「三重の子どもたち展」に展示されたことがあります。友達の顔を描いた作品でしたが、「他とはちょっと違っていいね」と園長先生から言われたそうです。展示風景の写真があり、自分の記憶にも残っているの、三重県立美術館は思い出深い美術館です。
この他にも好きな作家や理想の美術館など、たくさんのお話をうかがいましたが、紙面の都合上、一部のみを編集したかたちで掲載しました。
今回のこどもアートinみえでの経験が、今後のお二人の作家活動にとってもいい契機となれば嬉しく思います。(L.H.H.)

インタビュー日 2010年12月5日(日) 三重県立美術館にて

こどもひろば活動報告



2010年度に開催したこどもひろばの様子

今年度もたくさんの子どもたちが、美術館に来てくれました。その中には初めての子もいれば、毎回来しみに参加してくれる子もいます。その期待に応えるべく、大学生のボランティアスタッフと共に、楽しく鑑賞できるような企画を日夜、考えています。

昨年開催したひろがるアート展では、小学生以下の子どもとその保護者を対象に「なにでできているかな？」と題して、こどもひろばを開催しました。ここでは素材に注目し、鑑賞しながら作品にはどんな素材が使われているのかを考え、触ることが出来ない作品の代わりに、素材の見本を用意し、その素材を通して作品の質感や重さなどを知ってもらいました。

用意した素材は、鉄、ブロンズ、大理石、ガラス、綿、口ウ、糸です。まず、これらの素材が使われていそうな作品の前にそれぞれ置いてもらいました。その後、置かれた素材が作品のどこに使われているか、同じ素材を使った作品が他にはないかな

ど、みんなで話し合いながら鑑賞しました。このように素材に注目することで、作品をじっくり鑑賞でき、作品の質感や作品になった後の色や形の変化の面白さなど、新しい発見や作品の魅力を感じてもらえたのではないのでしょうか。
こどもひろばは、子どもたちやその保護者の方が楽しく美術鑑賞ができ、ドキドキ、ワクワク胸を弾ませるような作品と出会えるきっかけ作りをお手伝いしています。他にもさまざまなこどもひろばを開催しています。その様子は、ホームページでご紹介していますので、ぜひご覧下さい。(K.M.)

三重県立美術館友の会へのお誘い

友の会は三重県立美術館を支える団体として活動しています。研修旅行、美術講演会、懇談会など、会員同士の楽しい交流や美術の教養を深める催しに参加できます。

■年会費
一般会員：3,000円 入会金：500円
ペア会員：5,000円 入会金：1,000円

■特典
会員鑑賞券配付、観覧料半額、美術館に関する情報提供のほか、レストラン、ミュージアムショップのご利用にも割引があります。詳細は、三重県立美術館友の会事務局 (TEL 059-227-2232) までお問い合わせください。

財団法人 三重県立美術館協力会 賛助会員へのお誘い

美術館の調査・研究事業補助、カタログなど美術資料の作成頒布、鑑賞団体への援助など、美術館活動活性化のための事業をおこなっています。協力会の主旨にご賛同いただき、賛助会員へのご加入をお願いします。

■会費
年間一口
個人：25,000円 法人：50,000円
準会員：10,000円

■特典
展覧会ならびにレセプションへの招待、各展覧会毎のカタログ贈呈や美術館活動に関する情報提供などの特典があります。詳細は三重県立美術館協力会事務局 (TEL 059-227-1117) までお問い合わせください。